

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-152	24-413	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名 (原題/訳)		
Reduction in non-abstinent WHO drinking risk levels and depression/anxiety disorders: 3-year follow-up results in the US general population WHO の飲酒リスクレベルの低下とうつ病/不安障害：米国の一般集団における 3 年間の追跡結果		
執筆者		
Justin Knox, Jennifer Scodes, Melanie Wall, Katie Witkiewitz, Henry R Kranzler, Daniel Falk, Raye Litten, Karl Mann, Stephanie S O'Malley, Raymond Anton, Deborah S Hasin; Alcohol Clinical Trials (ACTIVE) Workgroup		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2019 Apr 1;197:228-235. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2019.01.009. Epub 2019 Feb 14.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、不安、うつ病、飲酒量の削減		30852375
<p>背景 : アルコール使用障害 (AUD) の臨床試験において、世界保健機関 (WHO) の飲酒リスクレベルなど、個人の感情や生活機能の改善を予測できる断酒していない者の飲酒量の減少は、有用なアウトカムとなりうる。</p> <p>方法 : 米国の全国調査における現在の飲酒者 (n = 22,005) を対象に、2001-02 年 (第 1 回) に面接を行い、3 年後 (第 2 回) に再接触を行った。WHO 飲酒リスクレベル (過去 12 ヶ月間の 1 日あたりの推定平均エタノール消費量 (グラム) を用いて定義された 4 段階分類システム (超高リスク、高リスク、中リスク、低リスク飲酒者))、および DSM-IV の、うつ病性障害と不安障害が双方の Wave で評価された。ロジスティック回帰を用いて、第 1 回と第 2 回の WHO リスクレベル間の変化と、うつ病および/または不安障害の存在または持続との関連を検定する調整オッズ比 (aOR) を作成した。</p> <p>結果 : 第 1 回の超高リスク飲酒者において、第 2 回におけるうつ病および/または不安障害の低いオッズは、WHO リスクレベルが 1 レベル、2 レベル、または 3 レベルに低下することによって予測され (aOR = 0.42, 0.37, 0.67, p 値 0.04-<.0001)、第 1 回でそのような障害を有する者におけるうつ病および/または不安障害の持続も同様であった (aOR = 0.37, 0.29, 0.51, p 値 0.03-<.0001)。より低いリスクレベルで飲酒を開始した参加者では、結果はあまり一貫していなかった。</p> <p>結論 : 超高リスク飲酒者において、WHO 飲酒リスク分類の低下は、うつ病および/または不安障害のリスク低下と関連していた。これらの結果は、WHO リスクレベルの低下が、個人の感情や活動の有意義な指標であることを示す知見に追加された。</p>		